

# 竹取新聞

発行所  
株式会社 カグヤ



第157版

理念と実践で  
絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一義」の理念のもとに活動しているカグヤクルーの日々の出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

カグヤグループも  
毎日元気に配信中！

カグヤウェブサイト



www.caguya.co.jp

「聴福庵」の情報はFacebookで  
f 神家総本家 聴福庵



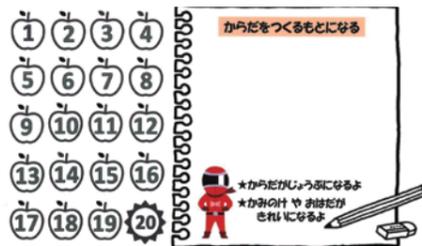
ドレッシングの3種類の味の調合やラベルに描かれている絵、文字は、昨年度卒園した子どもたちが関わったそうです！

## 5歳児のマイスターが作ったドレッシング①

「食レンジャーノート」は、赤黄緑の3種類があり、体内の役割や働きがレンジャーごとに分類され、各色20個、合計60個塗れるようになっていきます。食レンジャーノートの全てを塗れた子に「ドレッシングマイスター」の役割を任命し、給食のドレッシングの味付けをお願いしよう！と なったと言います。

緊急事態宣言が明けてからも食レンジャーノートに取り組む子は、朝食に食べたものを塗ることに切り替え行っていたそうです。（給食では全ての色を塗ってしまうため）少しづつ「三色食品群」の理解が深まっていたある子が、「サンドイッチを食べると、赤黄緑全部塗れるんだよ！」と他の子に伝えているのを聞き、栄養士の先生も、そこま で理解が深まっているの！と驚いたそうです。

普段の給食では、卓上に「三色食品群」の札を置いて その時の気分で色を選んで いると教えてくれました！



三茶こだま保育園のHPから、「食レンジャーノート」、園の先生のイラスト入り「食べ物表」のデータのダウンロードが行えます！

いるため、「今日の食材は何色だろう？」「牛乳は嫌いだけど、チーズは食べられる！」といった会話に発展し、子どもたちなりに理解していることを感じると仰っていました。

コロナ前から年に1、2回ほど、栄養士の先生から「三色食品群」について、どの食べ物を食べると体にどういった効果があるかなどを伝える機会を設けていたそうです。その中で大事にしていたことは、「教えて覚えてもらうことよりも、子どもたちが自ら気づける環境づくりを大切にしています」と栄養士の先生が話をしてくださいました。（次号で、こちらの実践の続きをご紹介します。）

## 参加動機に変化の兆し

前号ではセミナー参加方法について、オフライン参加者が数がコロナ前に戻ってきていること、参加比率がオンライン・オフラインで同等になってきていることを掲載させて頂きました。今号では、参加後アンケートから読み取ったそれぞれの特徴についてお伝えします。

オンライン参加のメリットについては、回答の特徴として「コロナ禍で移動がしづらくても（人員不足含む）研修が受けられる」「保育に支障が出にくい」「複数の職員で受講できる」という声が多く聞かれる。現在のコロナ禍の影響を感じます。

一方でセミナーに対する要望の回答の特徴として、「施設見学をズームでもしてほしい」「実際の子ども姿を見たい」など、「園見学」に関するご要望が多くあることが分かりました。次にオフライン参加者のアンケート回答では、メリットとして「実際に現場を見たり、同じ保育を目指している県外の方とも保育の話ができて良

かった」「直接、藤森先生の話を受けて学び深い時間を過ごせて良かった」「実際に園見学をして自園との違いを肌で感じられた」「自園でやるべきことのヒントを園見学から感じることができて良かった」など、会場や園見学に来ることを感じられる肌感的学びのメリットに関する回答が8割を超えていました。

それぞれの回答を踏まえるとやはり現地に足を運ぶオフライン研修の学び深さは特徴的ですが、一方で足を運べなくても園としての学びを止めずにいられるというオンラインの重要性も特徴的でした。

社会の各所でDX（デジタルトランスフォーメーション）が進む中、ズームなど「離れていても繋がりを感じられる」時代になりました。だからこそ「直接訪れたい」「安心して現地に足を運びたい」といった「肌感のある学び」を求めているのだと思います。変化に対応できるように、私たち自身も学びと歩みを止めないようにしていきたいと思えます。

東京都世田谷区にある三茶こだま保育園の栄養士の先生に、園の子どもたちと開発し販売された「ドレッシング」についてお話を伺いました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府による緊急事態宣言発令の休園中（2020年5月）、自宅で過ごす子どもたちにか、と考えたのが今回のきっかけだったと言います。

休園中の取り組みの一つとして、「三色食品群」の説明動画の配信と、「スーパージョー

レンジャー」の食べ物表とノートを自宅に送り、その日の食事で該当する食品群に色を塗ってもらうことを考えたそうです。園での給食では、旬の食材を使い栄養のバランスを考え食事を提供出来ませんが、おうち時間が増えるとうしても食事が偏りがちになるのでは？とご自宅での食事や健康のこと、そして子どもたちが楽しく過ごせるにはどうしたらいいかを考え、こちらの取り組みを行ったと仰っていました。

「三色食品群」の札を置いて その時の気分で色を選んで いると教えてくれました！

カグヤでは、それぞれが別々の場所においても、お互いの気持ちや様子をクルー同士はもちろん、皆様とも共有できるよう、毎日、ホームページでブログ配信しています。ここではその一部を抜粋して、日々の実践をご紹介します。

## 田んぼで草取り



お米だけでなく、私たち人も一緒に育っている田んぼ

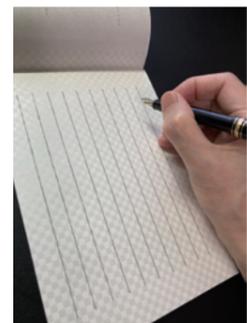
今年も千葉の「むかしの田んぼ」、福岡の「暮らしフルネス農園」で田植えをし、先月は草取りを行いました。最近はお世話になってる藤崎農場の方々やカグヤクルーだけでなく、友人や家族、近隣の学生や地域の方々など、参加される方も広がってきた田んぼ。共に汗を流し身体を動かしていくと、何とも言えない清々さと一体感がうまれてきます。

今回、初めて田んぼに入ったという方からは「自分の目でみて感じて、手をかけて初めて身につく知恵があり、その知恵はからだで覚えるものです。自然はそのことを、とても素直に、時に荒々しく教えてくださいます。」と感想を頂きました。今は地方でも田んぼに入った経験のある人は少なく、自然に住む生き物を探して捕まえたり、田植えや草取りなど農作物のお世話や収穫したりということも少なくなってきました。そんな自然との繋がりがや先人の知恵への感謝、人々と関わる豊かさ、手間をかける喜び、食べ物の大切さなど、苦労したからこそ見えるもの、体験したからこそ身につくものが、田んぼには多くあることを改めて感じました。田んぼはまさに子育て、人育ての場だと感じるからこそ、未来へと繋いでいけたらと思います。

### 日本の智と慧

## 相手を想う時間

今年は何年になく早い梅雨明けとその後の大雨、そして再猛暑となりましたが、この夏の終わりは、さほどな時候の挨拶をしたものでしょうか。私自身はここ暫く「手紙」を書いていませんが、考えてみると、ちゃんとした手紙を書くのは割に手間要りでした。まず「時候の挨拶」を調べ、実際の季節に合っているかを確認し、「便箋と封筒」も趣のあるものを選び、「切手」の図案にも凝ったりしたものです。また、何度も相応しい言葉を選び直したり、自分の字が気に入らず書き直したりして、



便箋に向かって、万年筆を持ったまま相手と対話する。手紙を書き出すまでの時間が至福のひとつです。

結構時間がかかりました。しかし、この手紙を書いている時間は、実は「相手を想う時間」でもありました。内容に関わらず、相手のことだけを考える貴重な時間でした。いつの間にか、手軽に「メール」で済ますようになって、確かに便利で楽にはなりましたが、このような「手紙の時間」に代わるものが今他に見当たりません。「晩夏の候、スマホをしばし横に置いて、たいせつな誰かに想いを馳せてみませんか。敬具。」

### 一期一会庵

## 日本人の心のふるさと

先日、長いお付き合いの熊本県の保育園の園長先生と先生方が暮らしフルネスの体験で来庵されました。この園の理念は、地域の子どもの心のふるさとになることであり、日々の保育を丁寧に全員で取り組んでおられます。以前、こちらの園の行事で伝統的な獅子舞を拝見する機会がありました。その獅子舞は職員さんたちによって行われていたのですが、私が幼い頃に畏怖を感じたように子どもたちにも伝わっているように感じました。とても印象深かったのは、3歳児くらいまでは獅子に大泣きしていたのですが4歳児くらいからは獅子に手を合わせて感謝で拝んでいました。子どもの頃のこの体験は一生忘れず、何か大切な日本人の心として、自分の背骨にまつすぐ繋がって残っているように私は思いました。

現代は、形式だけになっていく行事がたくさんあります。意味もわからず、ただやっているだけになると知恵が伝承されることはありません。

知恵を伝承するには、この時代の価値観でも理解できるように刷新していく必要があります。日本の伝統文化を守っている方々も、知恵を使い続けるために日々新しいことに挑戦を続けています。本来、伝統行事もまた同様なものだと思います。

私の嫌いな言葉に「和風」というものがあります。見た目だけの和で、中身は和ではないことが和風です。和風と和ではそこに天地の開きがあります。和であるということは、統合されたままの意識を保っているということであり、これは日本の文化が自分の背骨に入っていてそれがいつでも活かし使える状態になっているということではないかと思っています。

知識を持つ前の子どもたちに、どれだけ本物の知恵を伝えることができたでしょうかと思います。これは先祖からいただいた大切な恩徳を子孫たちに譲っていくことのように思います。私たちの取り組んでいる暮らしフルネスの体験でこれからの暮らに保育の中で子どもたちにその記憶や知恵を伝導し伝承されていくことになるのかとても楽しみです。これからの未来の子どもたちに、先人たちの努力の結晶でもある知恵が伝承していきけるように精進していきたいと思っています。

### 編集後記



子どもの声はとても正直で、そして学び深い声ばかりでした。

つい最近、娘の小学校卒業アルバムが届きました。「人生で大切にしたいこと」をテーマに綴られているページでは、「失敗は当たり前だ」「失敗は成功だ、失敗しない人が失敗だ」「失敗を経験に」と『失敗』を前向きに受け止め、友達同士で支えたり認め合えた経験を綴る子ども達ばかり。安心して失敗

でき、助け合える場づくりが出来ている理由を娘に聴くと「先生からの強要が一切なかった。話を聞いてくれた。自由を尊重してくれた。間違ったら叱ってくれた。」と誇らしげに、そして嬉しそうに話してくれました。先生、素敵な学校生活と見守りをありがとうございました。(真田海)

カグヤは「子ども第一義」の理念を实践し、お客様の発展と自立に貢献していきます



ライトハウス(灯台)  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.050-1744-8823  
fax.03-3518-6218

カグヤウェブセンター  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-17  
東京堂神保町第3ビルディング8階  
tel.03-3518-6217  
fax.03-3518-6218

働き方と暮らし方の一致  
暮らしフルネスについて

